

週間感染症情報

2017年44週 2017年10月30日より2017年11月5日まで

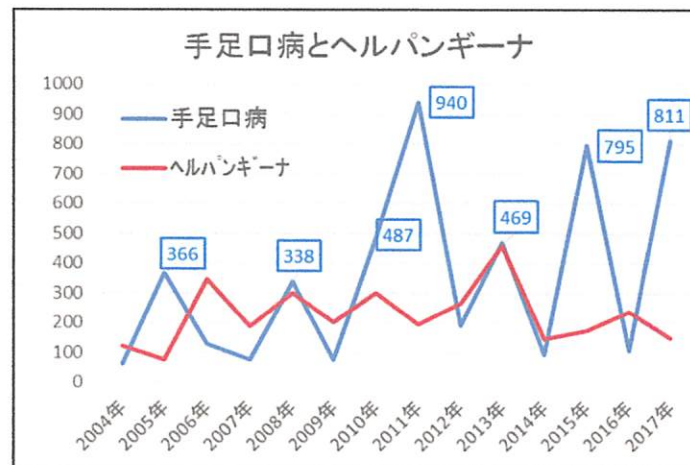
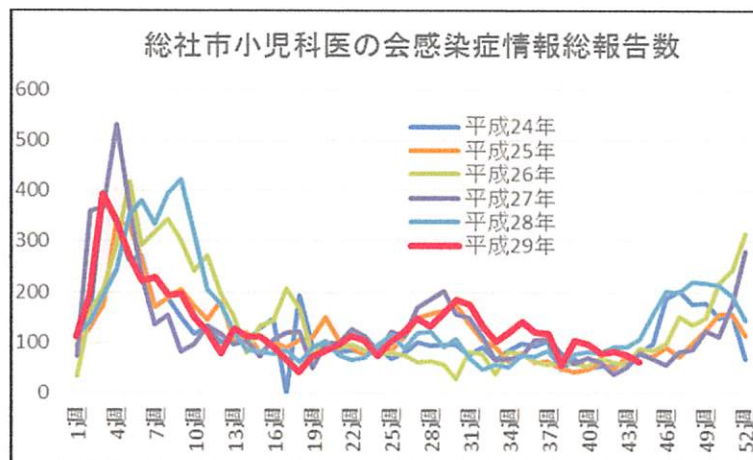
麻疹	
風疹	
水痘(みずぼうそう)	2
ムンプス(おたふくかぜ)	2
百日咳	
溶連菌感染症	9
手足口病	3
ヘルパンギーナ	1
伝染性紅斑	
感染性胃腸炎	31
ロタウイルス(再掲)	
便アデノウイルス(再掲)	
突発性発疹	1
伝染性膿痂疹(とびひ)	6
ヘルペス性口内炎	
アデノウイルス感染症	2
RSウイルス感染症	5
マイコプラズマ感染症	1
インフルエンザ(臨床診断含む)	4
インフルエンザA	0
インフルエンザB	4
A+B	

小児科外来はそれほど忙しくありませんが、感冒症状、嘔吐などが増えています。左下の感染情報総報告数のグラフからお分かりのように、例年初冬よりノロウイルスの胃腸炎流行が始まりその後インフルエンザの流行となり、報告数が増加し、大きなピークを示します。インフルエンザ流行時には吉備医師会の先生方の報告も加わり、500名を超える週があります。夏の小さなピークは、手足口病などの流行によるものです。最近では、手足口病は、隔年ごとに800名前後の報告があり、今年も流行年でした。

インフルエンザBの報告は西小関連の症例で、大きな流行になることなく終息すると思われます。

水痘はワクチン未接種の市内保育園2歳児、市内小学校4年です。ムンプスは抗体検査予定で疑い例です。

感染性胃腸炎は、報告が増えています。ノロウイルスの流行時期になりますが、感染力が強く予防対策はなかなか困難です。ノロウイルスは治癒しても便にしばらく排泄されますし、不顕性感染があります。検査をしてもらってくださいと言われたと来院する患者さんがいますが、保険適応が限られますし意味がないと思います。手洗い等予防が大切です。RSウイルス感染症は流行のピークは過ぎましたが、まだ報告があり注意が必要です。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyaiinsoja.webmedipr.jp/>)